

〔国際会議発表〕

発表研究者	東京農工大学 工学研究院 助教 伊藤 一陽	2222102
参加会議	2022 IEEE International Ultrasonics Symposium (IUS)	
開催場所	ヴェネツィア・イタリア	
出張期間	2022 年 10 月 9 日～10 月 15 日（7 日間）	
発表論文	Application of the cylindrical-Gaussian Form Factor for Collagen Fiber Characteristics Assessment in Myopic Eye Sclera with high-Frequency Quantitative Ultrasound 強度近視眼内のコラーゲン線維の特性評価のための円柱形状因子の適応	

概要：

本国際発表助成事業により参加した国際会議（IEEE IUS 2022）は、医用超音波や工業応用などに関して世界各国から研究者が集まり、超音波工学の分野ではトップカンファレンスとして位置づけられる国際会議である。この国際会議にて、「Application of the cylindrical-Gaussian Form Factor for Collagen Fiber Characteristics Assessment in Myopic Eye Sclera with high-Frequency Quantitative Ultrasound」という題目で口頭発表を行った。具体的には、近視に焦点を当て、眼球の形を保つ役割を担っているコラーゲン線維構造の変化を観察するための最適な手法を、音波散乱理論に基づいた物理的な数値情報に基づき提案した。

参加した学会では医用超音波に関するセッションが多く組まれており、自身が従事している超音波の定量評価に関する研究についても、“Tissue Characterization（組織性状評価）”という1つのコミュニティを形成している。その中で発表をしたことで、今後の研究の発展につながるようなディスカッションを当該分野のトップを走る研究者たちとすることができた。また、多くの研究者たちが聴講する中で発表することで、自分の名前や研究内容を少しでも知ってもらえたという点においても非常に有意義なものであった。

また、発表の場以外での会話を通して、最新の情報収集やお互いの近況をトップ研究者や同世代の海外の若手研究者たちと共有し合うことができたことも今回得られた成果の1つである。現在でも多くの学会がオンラインあるいはハイブリッド型で開催されている状況下においてオンサイトで学会に参加することの意義の1つはこの直接のコミュニケーションにあり、現地に行ってこそ得られる機会や情報もあることを改めて実感した。まだまだ海外出張が容易ではない状況下において海外での国際会議参加をサポートしてくれた方々に改めて感謝したい。